

介護のプロへの応援誌

# ふれあいケア

12

Dec.2016



特集

## 「自立支援」を考える

ふれあい訪問

特別養護老人ホーム  
大野和光園



## 新しい支援内容へ

そこで、表2のような新しい支援内容を組み立てました。

まずはAさんにこの新しい支援内容を受け入れてもらうため、準備期間を設けました。その間はヘルパーのみが目標を意識し、Aさんのゆつくりとした家事動作に「きちんとされていますね」「そのようにていねいにできる時間が私たちにあればよいのですけどね」などの声かけを継続的に行い、Aさんのやる気と活気を引き出す支援を行いました。また、Aさんが「主役」であるということを強く意識しました。

Aさんの意欲が低下したり若干の体調不良などがあったため、準備期間は半年という年月を費やしましたが、予定通りの支援内容が実現しました。ヘルパーの訪問はこれまでの週2回から週1回（火曜13時～13時45分）に変更しましたが、その分、本人主体で行う掃除動作などに問題がないか確認しながら助言を行っています。また、いつも使っている部屋の掃除機かけはヘルパーの支援としました。買い物は地域のインフォーマルサービスで直接、そのグループに依頼することになりました。それまであまり地域の方と交流がなかつたAさんですが、買い物支援をきっかけにつながりができ、ごみ

■表2 支援内容の比較

|     | 改善前                        |                     |     | 改善後                  |                               |                     |
|-----|----------------------------|---------------------|-----|----------------------|-------------------------------|---------------------|
|     | ヘルパー                       | Aさん                 | その他 | ヘルパー                 | Aさん                           | その他                 |
| 火曜日 | ・掃除機をかける<br>・床ふき<br>・買い物代行 | ・買い物メモ作成            | —   | ・掃除機をかける<br>・大きな物の洗濯 | ・モップかけ<br>・粘着テープかけ<br>・買い物の依頼 | インフォーマル支援<br>→買い物代行 |
| 金曜日 | ・洗濯干し<br>・買い物代行            | ・洗濯機を回す<br>・買い物メモ作成 | —   | —                    | ・洗濯                           | インフォーマル支援<br>→買い物代行 |

がら助言を行っています。また、シーツなど大きな物の洗濯干しや、いつも使つて生活されています。

現在、「自分は地域包括ケアシステムのモデルケースである」と自信をもつて生活されています。

## ヘルパーの観察力と報告は「必須アイテム」

利用者は一人ひとり違う個性をもつて生活されているので、Aさんに効果があつた方法がBさんには無効であることはしばしばあります。また、アセスメントでどんな有能なサービス提供責任者が訪問したところで、情報を100%把握することは困難です。担当ヘルパーの観察力と報告が、スタート時点の支援内容を進化させる「必須アイテム」になります。利用者との信頼関係を築いておくことは大切です。利用者のニーズと状況を把握した後に、多軸的に活用できるかが重要な要素になってくると思っています。

## 地域に溶け込む住民の「いこい」の場所

「誰でもふらっと立ち寄っておしゃべりをしたり、相談したり、気の合う仲間とサークル活動ができる『いこいの場』をつくりたい！」

その想いで、高齢化がすすむ新興住宅地の一軒家を借り上げて毎日型の「砂川サロン いこい」を平成22年に開設しました。地域のサロンとして無料で利用でき、誰でも自由に茶話会や井戸端会議を楽しめる場となりました。

開設当初は利用される方が偏り、同じ顔ぶればかりで、どうしたら多くの方に利用してもらえるか試行錯誤の日々でした。各種イベントを企画しても、一過性の集客で継続的な利用に至りませんでした。特に男性の参加が少なく、閉じこもりがちな男性の「仲間づくり」「生きがいづくり」「社会参加」を目的に、趣味や特技を生かした自主的なサークル活動実現の核となる男性へのアプローチを試みました。

# 実践レポート3 地域課題から 自立支援を考える

渡辺 幸子

大阪府・社会福祉法人 長寿会 泉南市地域包括支援センター六尾の郷 管理者

■写真1 法人全景



泉南市地域包括支援センター六尾の郷の母体である社会福祉法人 長寿会（写真1）は、設立当初より地域貢献事業に力を入れており、介護保険サービスの内外を問わず地域のニーズの掘り起こし、社会資源の開発に取り組んでいます。

これらの法人の強みを活かし当センターとして、サロンの活性化と地区ケニア会議の充実を二本柱にして、自立支援に向けた取り組み、個別・地域のニーズに応じたサービスの開発を推進しています。

## 地域に溶け込む住民の「いこい」の場所

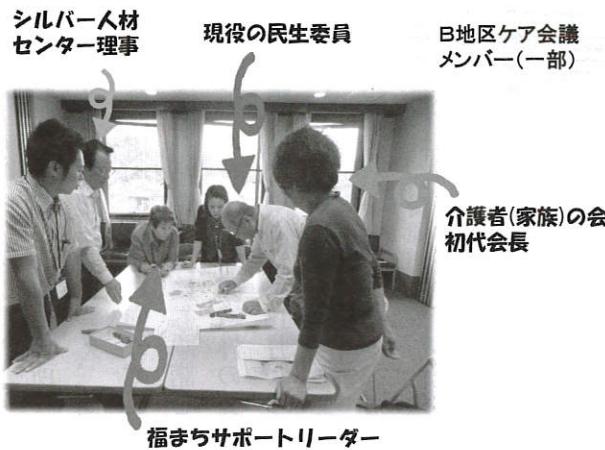
「誰でもふらっと立ち寄っておしゃべりをしたり、相談したり、気の合う仲間とサークル活動ができる『いこいの場』をつくりたい！」

その想いで、高齢化がすすむ新興住宅地の一軒家を借り上げて毎日型の「砂川サロン いこい」を平成22年に開設しました。地域のサロンとして無料で利用でき、誰でも自由に茶話会や井戸端会議を楽しめる場となりました。

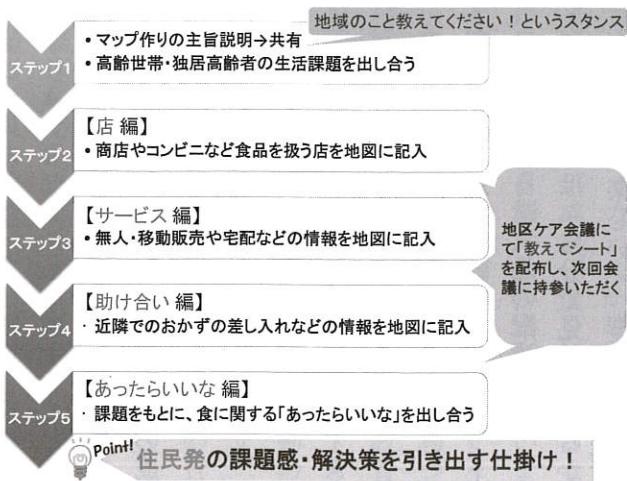
開設当初は利用される方が偏り、同じ顔ぶればかりで、どうしたら多くの方に利用してもらえるか試行錯誤の日々でした。各種イベントを企画しても、一過性の集客で継続的な利用に至りませんでした。特に男性の参加が少なく、閉じこもりがちな男性の「仲間づくり」「生きがいづくり」「社会参加」を目的に、趣味や特技を生かした自主的なサークル活動実現の核となる男性へのアプローチを試みました。

## 特集 「自立支援」を考える

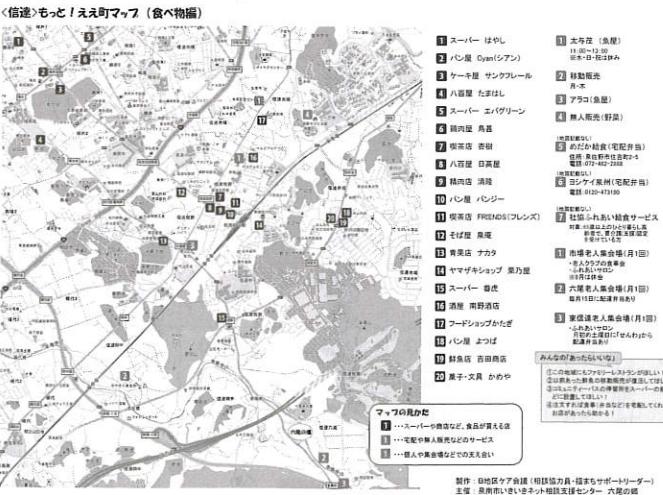
■写真3 マップ作りの様子



■図3 マップ作りのステップ



■図4 もっと！ええ町マップ



の住民が「食」の確保に困っていることがわかりました。そこで半年かけて、地域の「食」を扱う店舗や配達してくれる販売店を「教えてシート」を活用し相談協力員と確認作業を行いました。住民・行政といっしょに地域診断して完成したマップ（図4）は、随時更新できるように情報をデータ化し、地域住民や担当地域で活動するケアマネジヤーにも社会資源の一つとして活用し

ていただいています。

### 「困った」を「良かつた」に！ 「困った」を「良かつた」に！

マップ作りを通して、「地元スーパー」「モールへは遠くて行けない」「生協やモールへは遠くて行けない」という地域課題が明らかになってきました。またマップ

の「あつたらしいな編」を作成する未 来志向のディスカッションで、あれば助かる資源について、①近くに出張販売が来てほしい、②スーパーまでの送迎車があればいいのに、と相談協力員から意見がありました。

当センターから、住民発の地域課題への具体的な解決策を実現するため、当法人が運営する「砂川サロン いこ

■図1 砂川サロン いこいの予定表

砂川サロン いこい 週間予定（一例）

| 日     | 月      | 火 | 水    | 木        | 金      | 土 |
|-------|--------|---|------|----------|--------|---|
| 囲碁同好会 | iPad教室 |   | 出張販売 | パソコンサークル | 将棋サークル |   |

砂川サロン いこい 年間予定

| 1月      | 2月 | 3月   | 4月        | 5月    | 6月    | 7月         | 8月 | 9月  | 10月    | 11月     | 12月        |
|---------|----|------|-----------|-------|-------|------------|----|-----|--------|---------|------------|
| 錦開きイベント |    | 将棋大会 | スカットボール大会 | 映画上映会 | ボブリ作り | ※夏のキッズスクール |    | 忘年会 | クリスマス会 | 干支のちぎり絵 | ※冬のキッズスクール |

※キッズスクール… 小学生を対象に、宿題や工作などを地域の高齢者が見守りながら行う季節限定企画。

■図2 <事例>「いこい」が居場所になったA様の場合

| 以前のA様    | 現在のA様                                  |
|----------|--|
| 外出頻度     | 月1回程度（通院のみ）                            |
| 介護保険サービス | 買い物代行（週2回）※サービス提供時間のすべてを買い物に費やす。       |
| 他者との交流   | 近所に友人がおらず、一日誰とも話さない日も多い。ヘルパーの会話が唯一の交流。 |
| 家族関係     | ひきこもりがちでストレスが溜まり、家族との衝突が絶えない。          |
| 日常の楽しみ   | 外出しないため、趣味の将棋も対局する相手がない。               |

☆目標ができた☆  
「もっと将棋が上手になりたい！」という想いで、多世代の棋士と対局できるいこい将棋大会への出場に向けて練習の日々を送っている。

泉州市では平成16年1月より住民主体の担当地区ケア会議がスタートしました。地区ケア会議がスタートして「地区ケア会議」から見えてきた「困りごと」

に相談でき、本音が言える友人が増え、徐々に表情も明るくなり、楽しみがある活動的な生活に変化した方もいます（図2、写真2）。

現在ではパソコンサークル・将棋サークルが発足し、サークルに参加しながら、地域のこと、老後のこと、介護の不安などを話し合える場所になりました（図1）。またサークル活動に参加することで、専門職と「顔なし」となり困ったことがあれば、気軽に

写真2 いこい将棋サークル



その地区ケア会議の案件の一つでもある「福祉談義」のテーマとして、地域で役立つ情報を地図形式で閲覧できるよう、平成27年4月より「もっと！ええ町マップ（地域資源マップ）」の作成に取り組みました（写真3、図3）。地域の情報を聞き出すなかで、多くのクラブ役員、地区福祉委員、水道検針員、新聞配達員、福まちサポートリリー・ダードなど、福祉に関心の高い地域住民（相談協力員）と行政、在宅介護支援センター（平成18年度より地域包括支援センターとコミュニティソーシャルワーカー）など、住民代表と地区担当の専門職です。

例で個別ケースの検討や、地域課題の把握・解決を目的に開催しています。構成員（メンバ）は民 生委員、老人

## トピックス

### 社会福祉施設における安全衛生対策に関する実態調査結果

中央労働災害防止協会

中央労働災害防止協会（中災防）は、厚生労働省の依頼を受け、近年労働災害が増加傾向にある社会福祉施設（①高齢者介護施設、②障害者（児）施設、③保育所、④訪問介護・看護サービスの四つの業態）の安全衛生管理体制、安全衛生教育の実施、具体的な安全衛生活動などについてアンケートなどによる実態を調査し、労働災害の減少および快適な職場環境づくりにつながる方策を検討するための基礎データの収集を行いました。

アンケートは、計933事業場に對し、郵送による発送、回収を行い、333事業場（うち高齢者（施設）818事業場、高齢者（訪問）307事業場、計1125事業場）から回答を得ました（平成27年11月、回収率35・8%）。

高齢者（施設）における労働災害の発生状況（平成25、26年度）

| 年    | 腰痛             | 転倒             | 墜落・転落         | 激突             | 激突され           | 交通事故           | 切れ・火傷          | 感染症            | その他            | 全体              |
|------|----------------|----------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|-----------------|
| 25年度 | 0.08人<br>(68人) | 0.06人<br>(48人) | 0.01人<br>(7人) | 0.01人<br>(10人) | 0.01人<br>(10人) | 0.03人<br>(23人) | 0.02人<br>(19人) | 0.03人<br>(23人) | 0.07人<br>(54人) | 0.32人<br>(259人) |
| 26年度 | 0.10人<br>(78人) | 0.08人<br>(61人) | 0.01人<br>(8人) | 0.01人<br>(11人) | 0.01人<br>(5人)  | 0.03人<br>(23人) | 0.02人<br>(20人) | 0.04人<br>(29人) | 0.11人<br>(86人) | 0.40人<br>(321人) |

※上段=被災者総数÷回答事業場数 下段=被災者総数 (編集部で一部改変)

写真4 出張販売



に協力依頼し、平成27年10月より「いこい」での出張販売が実現しました（写真4）。

これらの社会資源開発は、行政の力を借りず既存のヒト・モノを地域課題を解決する手段として、地域資源を活用して地域活性化に貢献する取り組みです。この取り組みは、地域資源を活用して地域活性化に貢献する取り組みです。

○出張販売の現状

- ・毎週水曜日13時～30分～14時～30分
- ・「砂川サロン いこい」駐車スペース
- ・利用者…20～30人
- ・売上げ…2万～2万5000円
- ・配達…砂川地区高齢者見守りネットワークによる購入品の配達
- ・利用者からは「自分で見て買えるから買い物が楽しい」「地元の商店が出張してくれて安心」の声

○出張販売を利用する効果

- ・大型スーパーへ行けない買い物困難者の課題解消
- ・しばらく会つていなかつた住民同士のつながりの再興
- ・コミュニティの場である「いこい」の周知
- これから期待すること
- ・出張販売利用でヘルパー支援回数を

困りごとを抱えた住民への日頃からの細やかなアセスメントと、地域資源の把握をていねいに行うこと、このどちらが欠けても自立支援につながりません。それと同時に専門職は地域福祉の視点をもち、住民の意欲ややりがいを継続し発展させるため、地縁組織や小地域ネットワークとともに、さまざまな仕掛けを用意し続けることが必要です。その結果、住民自身が福祉に心をもち個人の力を高め、「福祉力が高い町」「地域力のある町」へと変化していきます。それが私たち専門職の「腕の見せどころ」とだと考えています。

### 専門職の腕の見せどころ

・困難事例の発掘と早期対応ができる  
・「いこい」まで歩いて行くことを習  
・見守りネットワークと連携することで、  
・住民自らが発した課題に対しても自分たちの手で実現できたことが何よりの成  
・結果だと考えています。

・減らし、介護保険給付費の削減に  
・つなげる  
・「いこい」まで歩いて行くことを習  
・慣づけ、運動機能の維持・向上を  
・図る

なお中災防では、この調査研究の結果

このほか、労働安全衛生法で義務づけられている雇入れ時の安全衛生教育を実施している事業場が全体の51・8%であることや、労働災害防止活動の実施などについてもまとめています。

この調査結果報告書は、中災防のHP（[https://www.jisha.or.jp/research/report/201603\\_01.html](https://www.jisha.or.jp/research/report/201603_01.html)）に掲載されています。

この調査結果報告書は、中災防のHP（[https://www.jisha.or.jp/research/report/201603\\_01.html](https://www.jisha.or.jp/research/report/201603_01.html)）に掲載されています。